

報告日

議員氏名 稗貫 秀次 様

令和6年11月18日

出張者	稗貫 秀次 (印)	(印)	(印)	(印)
氏名	(印)	(印)	(印)	(印)

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	苫小牧市		
期間	出張日数	令和6年11月15日 から 令和6年11月15日 まで	泊 1 日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
①調査研究費	苫小牧市におけるCCS大規模実証試験事業		
備考			
資料等は別添のとおり			

議 員



都市行政調査報告(政務活動)

日 時：令和6年11月15日（金）14:00～15:30

場 所：苫小牧市真砂町12番地

日本 CCS 調査（株）苫小牧 CCS 実証試験センター 会議室

電話：0144-56-3151

調査項目：苫小牧における CCS 大規模実証試験事業

先方対応者：苫小牧 CCS 実証試験センター

副センター長

当 方：稗貫 秀次

1. 調査概要

・ CCS は、発電所や工場等から排出される CO₂ を含んだガスから、CO₂ を分離・回収して地中に送り込み、地下深くの安定した地層の中に貯めることで、大気中に放出される CO₂ を減らす技術であり、CO₂ の排出削減効果が大きく、日本の脱炭素化、産業政策とエネルギー政策を両立させるための重要な技術として位置付けられており、カーボンニュートラルの実現に必要不可欠な事業である。この事業が道内で実証試験された経過と事業内容について調査してきた。

2. 質疑応答

Q. CCS の適地と国内での処分方法は？

A. CO₂ の大規模排出源は、工業地帯の太平洋側に広範囲に点在しているが、排出源と貯留適地が近接しているとは限らない。貯留適地は、日本海側になるため、液化 CO₂ 船による輸送が有効な手段となり得る。

Q. プラントで作られた水素を広く活用する考えはないのか？

A. 自家用で発電に活用しており、それ以外で使う考えはない。

Q. 従業員の数は？

A. 全体で 112 名であり主に東京の本社に在籍しているが苫小牧には 20 名が在籍している。実証試験が終了したら、本社に戻ることになる。

Q. なぜ苫小牧で実証試験をすることになったのか？

A. 全国で 115 市がプロジェクトの誘致を表明したが、周辺環境や条件を総合的に勘案して苫小牧市に決定した。

3. 所感

・ 地球温暖化の主な要因は CO₂ 排出量の増加であり、ゼロカーボンシティに取り組む帯広市においても重要な政策である。国と自治体が連携して日本の温暖化対策を推進するために、事業の概要と推進について見聞を深めることができた。

以上